真野小だより

児童数：４６９名
Ｎｏ．２４（最終号）
令和４年３月２４日発行

学校教育目標『あかるく　やさしく　たくましく』

令和3年度卒業証書授与式を挙行しました

先週の金曜日、１８日に卒業証書授与式を挙行いたしました。卒業生が歴史と伝統ある真野小学校の卒業生として誇りと自覚をもち、大きく飛躍してくれることを祈ります。

卒業式では５つの心を大切にして欲しいと話しました。５つの心とは、「はいという素直な心／すみませんという反省の心／おかげさまという謙虚な心／させていただきますという奉仕の心／ありがとうという感謝の心」です。

３月は、リレーに例えるとリレーゾーン（テイクオーバーゾーン）です。一人ひとりが１学年上の自分にバトンを渡します。６年生が５年生に・・・、２年生は１年生にバトンを渡します。特に、小学校では６年生が要となります。６年生はこれまで真野小学校のリーダーの役割を果たしてきました。このバトンは重かったかもしれませんし、走りにくかったかもしれません。しかし、このバトンを持ってしっかりと走り切ることで、思いやりや優しさ、責任感、中学校進学への自覚等を身に付け、大きく成長してきました。

そして、５年生はこのバトンを引き継ぎます。最初は、６年生のように上手く走れないかもしれません。でも、バトンをしっかりと受け取り、次に繋ぐよう頑張ってくれることでしょう。真野小学校では、このようにして１４７年間バトンを繋いできました。バトンを渡してくれた６年生や卒業生に憧れ、一歩でも近づこうと努力し、そのバトンを丁寧に次に渡す。それが伝統を築いていきます。そうした真野小学校のバトンを繋いでくださった６年生が、地域に大勢いてくださいます。保護者の中にも大勢いてくださいます。

リレーで勝利する極意は「感謝と信頼」だと思います。次走者は前走者の走りを決して批判せず、バトンを繋いでくれたことに心から感謝して走り続ける。前走者はバトンを渡した後、次走者の走りを信頼の気持ちでひたすら応援し続ける。バトンを繋ぐことが心をも繋ぐことになるのです。このバトンパスは、学校だけでなく家庭や地域社会でも同じです。この春、バトンを渡す、渡されるすべての人に「リレーの極意は『感謝と信頼』である」、「そのバトンには数え切れない人々の汗と願いと時間が込められている」ことを分かって欲しいと思います。

今年度もご来賓の参列や在校生の出席は叶いませんでした。しかし、先週末の卒業証書授与式で、真野小学校の１４７回目のバトンパスが見事に成功したと信じています。

令和3年度の終わりにあたって

４月８日の第１学期始業式、新１年生とその保護者、そして教員で行った入学式からスタートした令和３年度。８月２６日に発出された緊急事態宣言下で始まった２学期。感染者が相次ぎ、学級閉鎖が連続した３学期。今年度も新型コロナウイルス感染症に振り回された１年でした。何を行うにも、感染対策を考慮しながらの学校生活でした。そんな中でも、子どもたちは一人ひとり、しっかりと着実に成長したと感じます。本日、令和３年度の最終登校日となりました。十分ではなかったかも知れませんが、コロナ禍ゆえの制約・制限のある中で、職員は子どもたちの成長に向けて直向きに努力しました。

間もなく年度末を迎えます。これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様方のお力添えがあってのことだと思っています。誠にありがとうございました。記して御礼申し上げます。

世間では早くも第７波についての話題が上っています。今後もｗｉｔｈコロナが続きます。職員一同地道に教育活動を積み重ね、知恵を絞り、工夫した取組を進めたいと考えています。令和４年度も引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。